



15歳の春。島の子供たちは大きな転機を迎えた。高校がない甌島では、中学を卒業すると親元を離れ、本土の高校へ進学する。これを島では「島立ち」と呼ぶ。ある者は希望に満ち、ある者は寂しさにもじませる。今回そんな甌島特有の「島立ち」を特集する。



里中学校

卒業式の直前、体育館に映し出されたのは、中学生活を振り返る写真600枚のスライドショー。そこには楽しかった3年間で詰まっていた。「自分たちで作り上げる」を目標に、アイデアを出し合い開催した文化祭。副担任の池田貴裕教諭のもと、観光客に人気の「方言おみくじ」を製作したのも思い出された。卒業する11人について、担任の森信浩教諭は「かわいい子たちです。私は表情が硬いという印象を受けるほうなので、『先生、笑顔！笑顔！』ってよく生徒に言われてました（笑）」と振り返った。



コロナ禍での卒業式。全員で合唱はできない。その代わりとして、個別で歌った様子を撮影。それを全員で歌っているように編集し、体育館いっぱい壁に映し出した。素朴ながら涙を誘う歌声。甌島1年目だった森教諭もこの映像に目を潤ませた。「『ここに赴任できてよかった』とさせる生徒たちでした。純粹さ、素朴さ、一生懸命さが伝わってくる。教師になってよかった。5年後の成人式では一緒に酒を飲みたい」と期待を込めた。

振り返れば楽しい思い出ばかり。島で過ごした日々は、これからの人生の礎だ。故郷を胸に大きく羽ばたけ！